

坂城町の未来を考える

坂城中3年生による 模擬議会を開催

1月19日(金)、役場4階の議場で、坂城中学校3年生による模擬議会が開かれた。

滝沢議長の議事進行のもと、6人の生徒が町の施策について質問し、山村町長ほか町の担当課長が答弁するという実際の町議会と同じ形式で行われた。

中学校では、3年間をかけて総合的な学習の環境で、授業や職場体験など多方面から町の第6次長期総合計画について学



び、今後のまちづくりについて、生徒が直接質問を行った。
緊張したなかでも、「坂城インター線の延伸について」「高齢者が安心して暮らせるまちづくり

「自分たちの知らないところで多くの方が町を支えてくれていることがわかった」「坂城町の強みや良さが発見できた」などのほか、3年後に選挙権を持つことにもふれ、「ひとりの有権者として、自立していきたい」と政治や行政に関心を持つ姿が見られた。



研 修 報 告

町議会主催の議員研修会を開催 「議会基本条例について」

講 師 新潟県立大学国際地域学部准教授 田口 一博 氏

方とは」を踏まえたうえでの議会基本条例制定を考える研修を行った。

研修会の中で講師からは、条例等で枠を作り活動の場を決めてしまうのではなく、まずは今ある環境を最大限に生かし、議員各々が現場の熱を感じ議論する場を構築することが望ましいとの話が

あった。坂城町においては自治体規模として議会と有権者の距離は非常に近く、お互いの顔を見て対話が可能である。さらに、自治体の規模によつてはこのような条例が足かせとなり、本来実行されるべき事案に対し、踏み込めなくなってしまうことが多々発生してしまう可能性を指摘された。

「議会基本条例」とは、議会運営の原則や住民と議会、議会と首長との関係について議会の基本姿勢を明文化したものである。今回、坂城町議会では「議員とは」「議会の在り



管理や改訂を行っていくことは困難であり、法規について明るい人材の確保が常になされるのか、自治体の現状に即しているかとの判断についてなど、課題は多い。

まずは、議員一人ひとりが坂城町の実情をつぶさに知り、議会の場で情報の共有と提示を行い、議論を行うことが最重要課題と考える。

(大日向 進也)